

環境影響評価 評価書案のあらまし

— 神戸市 —

資料

No.

4

第 199 回 神戸市
環境影響評価審査会

1. 事業の目的

● これまでの産業団地の整備の経緯

神戸市は、1868年の神戸開港から近代的港湾都市へと歩みだし、良好な社会的・自然的条件に恵まれた国際港湾都市として発展してきました。海と六甲山系に挟まれた東西にのびる既成市街地に人口と産業の大部分が集中していたため、1960年代の高度経済成長期を契機に、臨海部と内陸部で計画的・効率的に住宅・産業団地の供給を進めてきました。

内陸部では、住宅・産業需要に応えるため、住宅団地のほか、神戸流通センターやハイテクパーク、サイエンスパーク、西神インダストリアルパーク、神戸テクノ・ロジスティックパークといった産業団地を整備し、産業基盤の強化と市内経済の活性化をめざして取り組みを進めてきました。

● 産業用地の需要動向

近年、本市の産業団地の分譲は堅調に推移しており、物流施設用地は完売し、製造工場用地も残り少なくなっています。一方で、コロナ禍においても投資を希望する物流事業者や、工場等の建替え時期を迎えた製造事業者からの引き合いが続いており、将来的な用地需要が見込まれる状況にあります。

● 西神戸ゴルフ場の立地特性

① 基本計画等における位置付け

神戸市第5次基本計画及び都市計画マスタープランにおいて、産業集積を促進する「内陸新産業エリア」内に位置しています。

② 周辺産業団地との連携による相乗効果

事業実施区域は、市街地中心部から西北西に約12km、西神ニュータウンより東へ約4kmに位置し、神戸電鉄粟生線木津駅に隣接する神戸テクノ・ロジスティックパークに隣接しており、周辺産業団地との連携による用地活用の相乗効果が期待できます。

③ 交通利便性

神戸西インターチェンジに近接し、神戸淡路鳴門自動車道や山陽自動車道等の広域幹線ネットワークを経て、全国に広がる広域幹線網に直結した立地特性を有しています。

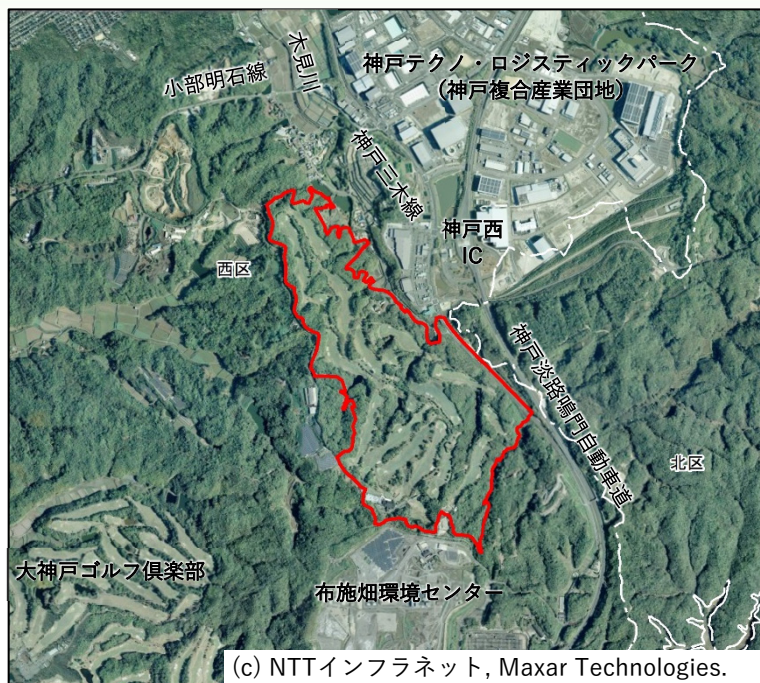
④ 既存インフラの転活用による環境負荷の低減及び迅速な産業用地の供給

敷地の大半が市有地であり、一定規模のまとまった用地（約100ha）が確保できます。また、ゴルフ場として一定開発が既に行われていることから、新たに山林を広く切り開くといった造成開発を行う必要はなく、環境負荷の低減が図られるとともに、工期短縮により迅速な用地供給が可能です。

以上のことから、今後の需要に対応し迅速に産業用地を供給するため、西神戸ゴルフ場を新たな産業団地として転活用するものです。

2. 事業計画の概要

事業者	神戸市
対象事業の名称	(仮称) 西神戸ゴルフ場を転活用した産業団地整備事業
事業の種類	工業団地及び流通業務団地の造成
事業の規模	全体面積：約100ha
事業実施区域の位置	兵庫県神戸市西区押部谷町木見

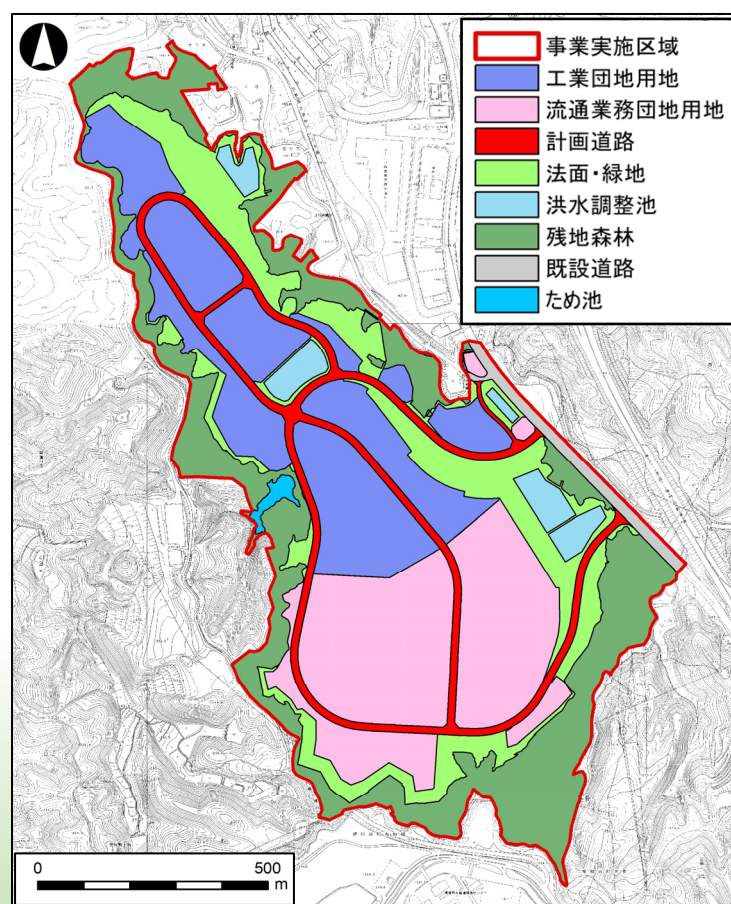


● 土地利用計画

事業実施区域のうち、工業団地用地、流通業務団地用地、計画道路、法面・緑地を造成するほか、防災施設として洪水調整池を設置する計画です。

なお、事業実施区域周縁部に存在する残地森林、既設道路及びため池は残し、造成によって新たに出現する法面や造成地は、積極的に緑化を行う予定としています。

利用区分	面積	比率
工業団地用地	23.6ha	22.8%
流通業務団地用地	23.4ha	22.6%
計画道路	7.4ha	7.1%
法面・緑地	17.0ha	16.4%
洪水調整池	3.3ha	3.2%
残地森林	26.6ha	25.7%
既設道路	1.8ha	1.7%
ため池	0.5ha	0.5%
合計	103.6ha	100.0%



土地利用計画平面図

3. 工事計画

項目 \ 年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
準備工		■								
構造物撤去工		■								
土工		■	■	■	■					
防災工・調整池工		■	■	■						
法面工			■	■	■					
法面排水工			■	■	■					
道路工・擁壁工				■	■	■	■			
下水道工				■	■	■				
宅地内排水工				■	■	■	■			
関連施設工				■	■	■	■	■	■	■
建築工				■	■	■	■	■	■	■

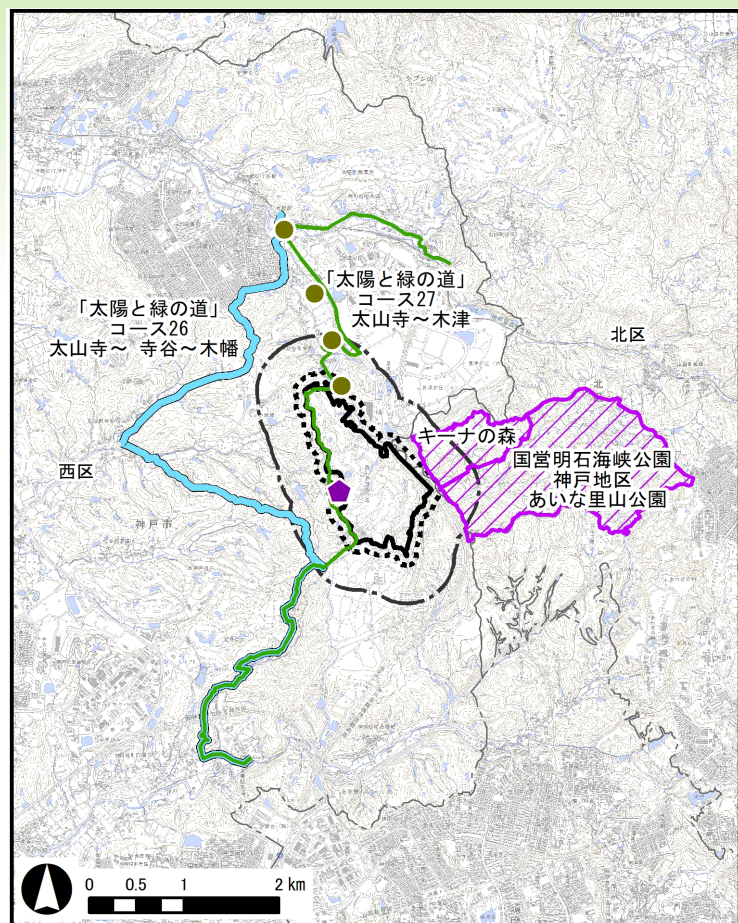
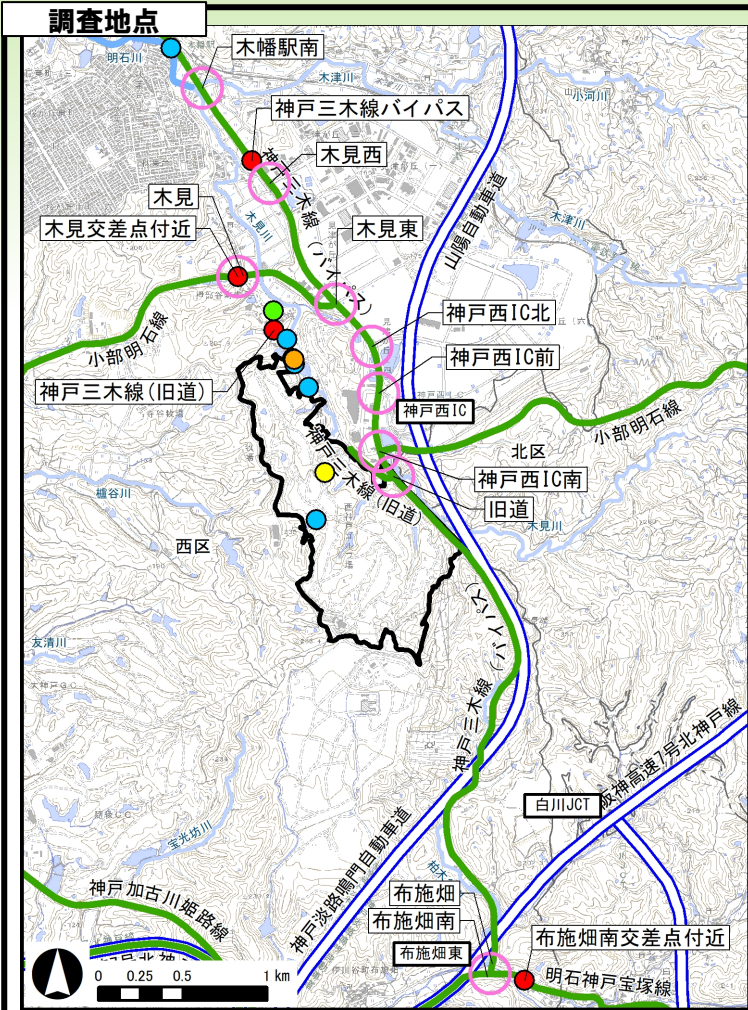
4. 環境影響評価の対象項目

環境要素の区分		行為等の区分		存在・供用			
		樹木の伐採	工事 土工等 土工事・建設	走行 工事関係車両の	施設の存在	施設の稼働	施設の走行 施設関係車両等
大気質	二酸化窒素 (NO ₂)、浮遊粒子状物質 (SPM)		●	●		●	●
	粉じん		●				
騒音	建設作業騒音		●				
	施設騒音					●	
	道路交通騒音			●			●
振 動	建設作業振動		●				
	施設振動					●	
	道路交通振動			●			●
水 質	浮遊物質 (SS)		●				
地形・地質	土地の安定性の変化の程度		●				
植 物	植生・植物相	●	●		●		
動 物	動物相	●	●		●		
生態系	上位性・典型性・特殊性の代表種、種多様性	●	●		●		
人と自然との触れ合い活動の場			●		●		
景 観	景観構成要素、可視特性				●		
文化環境	指定文化財、埋蔵文化財等		●				
廃棄物等	建設廃棄物、産業廃棄物	●	●				
地球温暖化	温室効果ガス (二酸化炭素)	●	●			●	
その他	地域交通			●			●

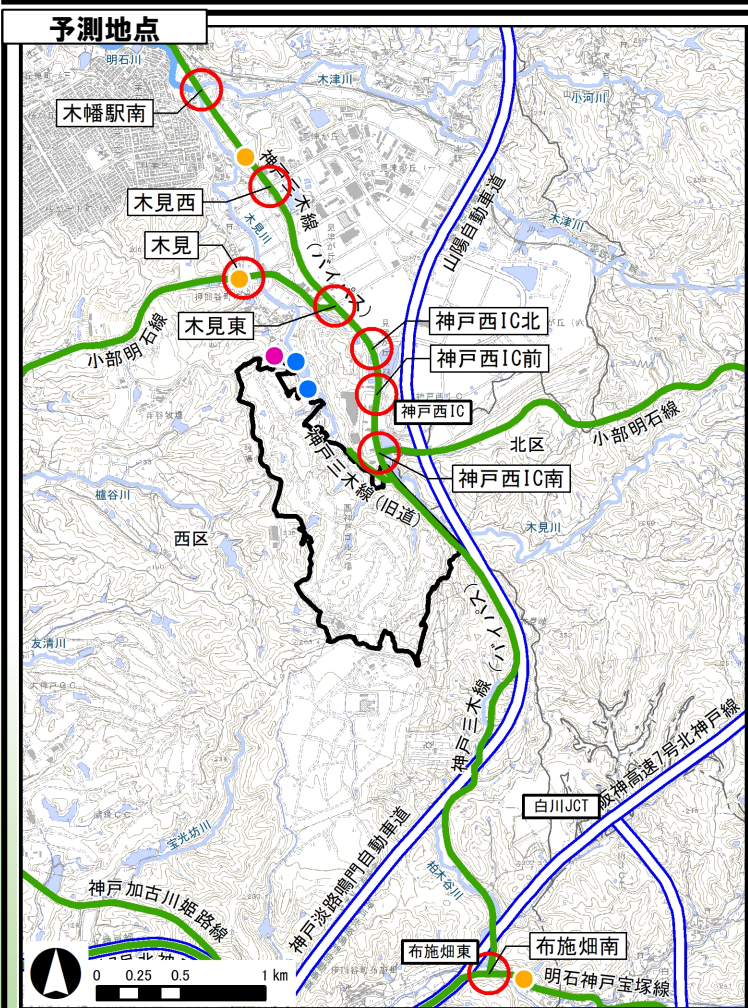
注) ●：環境影響評価項目として選定する項目を示しています。

5. 環境影響評価の概要

現地調査及び予測の位置



注) 「太陽と緑の道」コース27 太山寺～木津は一時休止となっており、「あいな里山公園」は、調査地域が未開園であることから、予測の対象としていません。



凡例		項目
調	●	地上気象調査地点
	●	大気質調査地点
	●	一般環境騒音・振動調査地点
	●	道路交通騒音・振動調査地点、地域交通調査地点
	●	水質調査地点
	○	地域交通調査地点
査	⋯	植物・動物調査範囲
	●	景観調査地点
	⋯	人と自然との触れ合い活動の場調査範囲
	▨	人と自然との触れ合い活動の場調査地点
	◆	文化環境調査地点
予	●	大気、騒音、振動予測地点(建設機械、施設の稼働)(住居近傍地点)
	●	大気、騒音、振動予測地点(関係車両の走行)(走行ルートの道路端)
	●	水質予測地点(木見川、川池)
	○	地域交通予測地点(主要な交差点)
▭		事業実施区域

注1) 住居近傍地点とは「事業実施区域境界線かつ近傍に住居が存在する地点」を指します。

注2) 走行ルートの道路端とは、「走行ルートの道路端かつ近傍に住居が存在している地点」を指します。

●現地調査結果

測定地点	二酸化窒素			浮遊粒子状物質			降下ばいじん
	期間平均値 (ppm)	日平均値の最高値 (ppm)	1時間値の最高値 (ppm)	期間平均値 (mg/m ³)	日平均値の最高値 (mg/m ³)	1時間値の最高値 (mg/m ³)	年間 (t/km ² /月)
事業実施区域近傍	0.006	0.009	0.022	0.018	0.035	0.099	2.45

注1) 調査期間：二酸化窒素及び浮遊粒子状物質は四季別に1週間連続、降下ばいじんは四季別に30日間連続。

注2) 二酸化窒素の環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下。

浮遊粒子状物質の環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下。

●建設機械の稼働

：排出ガス

建設機械の稼働に伴う排出ガス（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）の予測結果は、住居近傍地点及び最大着地濃度地点において環境保全目標値以下となりました。

時期	予測地点	項目 (単位)	日平均値の年間98%値	環境保全目標値
工事中	住居近傍地点	二酸化窒素 (ppm)	0.024	0.06以下
	最大着地濃度地点		0.041	
	予測地点	項目 (単位)	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値
	住居近傍地点	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.055	0.10以下
最大着地濃度地点	0.058			

：粉じん

建設機械の稼働に伴う粉じん（降下ばいじん）の予測結果は、住居近傍地点において0.98～3.26 (t/km²/月) となりました。なお、事業による影響は、散水の実施等の環境保全措置を実施することで、回避・低減に努めます。

時期	予測地点	項目 (単位)	時期	事業による影響	参考	
					現地調査結果	現地調査結果との足し合わせ結果
工事中	住居近傍地点	降下ばいじん量 (t/km ² /月)	春季	1.68	3.44	5.12
			夏季	3.26	1.76	5.02
			秋季	1.78	2.28	4.06
			冬季	0.98	2.32	3.30

注) 現地調査結果は、事業実施区域近傍における季節別の結果を示しています。

●施設の稼働：排出ガス

施設の稼働に伴う排出ガス（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）の短期濃度の予測結果（1時間値）は、住居近傍地点及び最大着地濃度地点において環境保全目標値以下となりました。

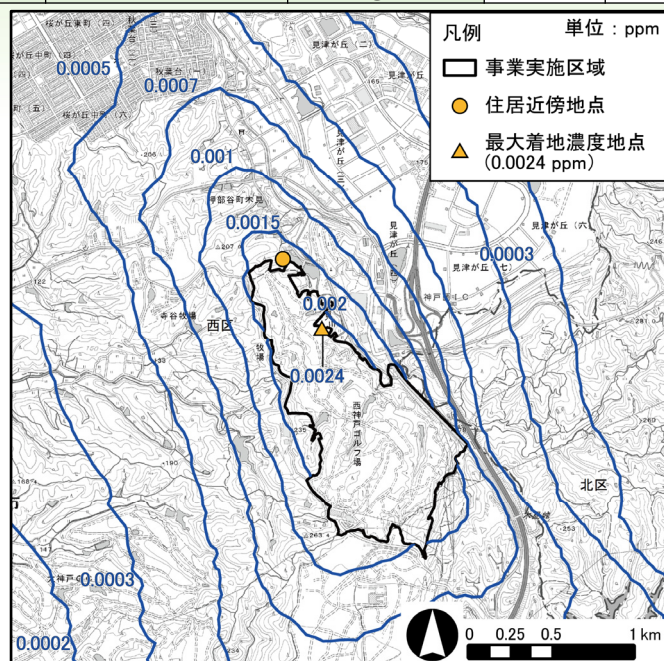
長期平均濃度の予測結果においても、住居近傍地点及び最大着地濃度地点において環境保全目標値以下となりました。

【短期濃度（1時間値）】

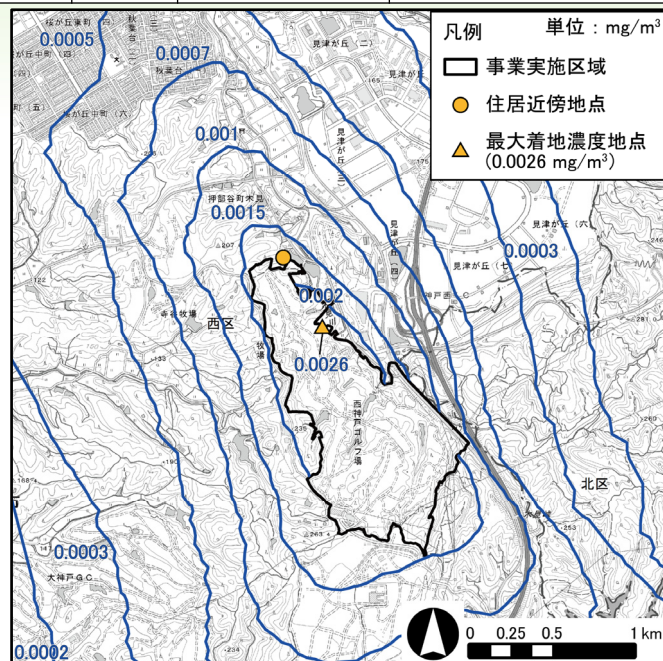
時期	予測地点	項目 (単位)	風向	事業による影響	現地調査結果	予測結果 (1時間値)	環境保全目標値
供用後	住居近傍地点	二酸化窒素 (ppm)	SSE	0.017	0.022	0.039	0.1～0.2以下
	最大着地濃度地点		NW	0.019	0.022	0.041	
	予測地点	項目 (単位)	風向	事業による影響	現地調査結果	予測結果 (1時間値)	環境保全目標値
	住居近傍地点	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	SSE	0.020	0.099	0.12	0.2以下
最大着地濃度地点	NW		0.023	0.099	0.12		

【長期平均濃度】

時期	予測地点	項目 (単位)	事業による影響	現地調査結果	予測結果	日平均値の年間98%値	環境保全目標値
供用後	住居近傍地点	二酸化窒素 (ppm)	0.0016	0.006	0.008	0.020	0.06以下
	最大着地濃度地点		0.0024	0.006	0.008	0.021	
	予測地点	項目 (単位)	事業による影響	現地調査結果	予測結果	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値
	住居近傍地点	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0017	0.018	0.020	0.059	0.10以下
最大着地濃度地点	0.0026		0.018	0.021	0.061		



長期平均濃度予測結果(事業による影響)(二酸化窒素)



長期平均濃度予測結果(事業による影響)(浮遊粒子状物質)

●工事関係車両・施設関係車両：排出ガス

工事中の工事関係車両及び供用後の施設関係車両の走行による沿道の排出ガス（二酸化窒素・浮遊粒子状物質）の予測結果は、いずれの予測地点においても、環境保全目標値以下となりました。

時期	予測地点	二酸化窒素 (単位：ppm)		浮遊粒子状物質 (単位：mg/m ³)	
		日平均値の年間98%値	環境保全目標値	日平均値の年間2%除外値	環境保全目標値
工事中	神戸三木線 (バイパス)	0.018	0.06以下	0.045	0.10以下
	木見交差点付近	0.018		0.046	
	布施畑南交差点付近	0.019		0.046	
供用後	神戸三木線 (バイパス)	0.018		0.046	
	木見交差点付近	0.018		0.046	
	布施畑南交差点付近	0.019		0.046	

騒音・振動

●現地調査結果

【一般環境】

(単位：dB)

地点	時間区分	騒音レベル (L _{Aeq})			振動レベル (L ₁₀)		
		平日	休日	環境基準	平日	休日	振動感覚閾値
木見地区住居付近	昼間	49	47	55	25未満	25未満	55
	夜間	44	40	45	25未満	25未満	

【道路交通】

地点	時間区分	騒音レベル (L _{Aeq})			振動レベル (L ₁₀)		
		平日	休日	環境基準	平日	休日	要請限度
神戸三木線 (バイパス)	昼間	64	62	70	31	26	65
	夜間	58	56	65	25未満	25未満	60
木見交差点付近	昼間	71 ^{注1)}	69	70	36	31	65
	夜間	65	61	65	25未満	25未満	60
神戸三木線 (旧道)	昼間	65	63	70	30	29	65
	夜間	58	56	65	25未満	25未満	60
布施畑南交差点付近	昼間	70	68	70	45	40	65
	夜間	63	62	65	33	30	60

注1) 騒音の時間区分：昼間 6～22時、夜間 22～翌6時。振動の時間区分：昼間 8～19時、夜間 19～翌8時。なお、太字は環境基準を超過することを示します。

注2) 振動感覚閾値とは、人が振動を感じ始める値を指しています。

●建設機械の稼働：騒音・振動

工事中の建設機械の稼働に伴う騒音・振動の予測結果は、住居近傍地点及び敷地境界最大地点ともに環境保全目標値以下となりました。

(単位：dB)

時期	予測地点	区分	騒音予測結果 (L _{A5})	環境保全目標値 (騒音)	振動予測結果 (L ₁₀)	環境保全目標値 (振動)
工事中	住居近傍地点	昼間	75	85	54	75
	敷地境界最大地点		84		75	

注) 時間区分：昼間 7時～19時。

●施設の稼働：騒音・振動

供用後の施設の稼働に伴う騒音・振動の予測結果は、住居近傍地点及び敷地境界最大地点ともに環境保全目標値以下となりました。

(単位：dB)

時期	予測地点	区分	騒音予測結果 (L _{A5})	環境保全目標値 (騒音)	振動予測結果 (L ₁₀)	環境保全目標値 (振動)
供用後	住居近傍地点	朝、夕	39	60	—	—
		昼間	39	65	35	65
		夜間	39	50	35	60
	敷地境界最大地点	朝、夕	50	60	—	—
		昼間	50	65	59	65
		夜間	50	50	59	60

注) 騒音の時間区分：朝 6時～8時、昼間 8時～18時、夕 18時～22時、夜間 22時～翌6時。

振動の時間区分：昼間 8時～19時、夜間 19時～翌8時

●工事関係車両・施設関係車両：騒音・振動

騒音の予測結果は、木見交差点付近において、施設関係車両の走行に伴う騒音が環境保全目標値を超過しました。その他の地点においては、いずれの項目においても環境保全目標値以下となりました。

なお、進出事業者への運行管理の要請等の環境保全措置を講じることで、施設関係車両の走行に伴う騒音の影響の低減が見込めることから、整合を図るべき基準等との整合が図られると評価しました。

【騒音】

(単位：dB)

時期	予測地点	区分	工事中・供用後の一般交通量の等価騒音レベル	工事関係車両・施設関係車両による増加分	予測結果 (L _{Aeq})	環境保全目標値
工事中	神戸三木線 (バイパス)	昼間	63	0	63	70
	木見交差点付近		71	0	71	71 ^{注2)}
	布施畑南交差点付近		70	0	70	70
供用後	神戸三木線 (バイパス)	昼間	63	1	64	70
		夜間	57	1	58	65
	木見交差点付近	昼間	71	1	72 ^{注1)}	71 ^{注2)}
		夜間	65	1	66 ^{注1)}	65
	布施畑南交差点付近	昼間	70	0	70	70
		夜間	63	1	64	65

注1) 太字はその時間帯の環境保全目標値 (昼間：70dB、夜間：65dB) を超過することを示します。

注2) 工事中・供用後の一般交通量の等価騒音レベルが基準を超えている地点については、工事中・供用後の一般交通量の等価騒音レベルを環境保全目標値としました。

【振動】

(単位：dB)

時期	予測地点	区分	工事中・供用後の一般交通量の等価騒音レベル	工事関係車両・施設関係車両による増加分	予測結果 (L ₁₀)	環境保全目標値
工事中	神戸三木線 (バイパス)	昼間	32	1	33	65
	木見交差点付近		39	1	40	65
	布施畑南交差点付近		48	1	49	65
供用後	神戸三木線 (バイパス)	昼間	32	1	33	65
		夜間	30	1	31	60
	木見交差点付近	昼間	38	1	39	65
		夜間	36	3	39	60
	布施畑南交差点付近	昼間	48	1	49	65
		夜間	44	1	45	60

水質（土工事・建設工事等）

土工事・建設工事等に伴う水質（水の濁り）の予測結果は、木見川及び川池において、いずれも環境保全目標値以下となりました。

（単位：mg/L）

河川等		予測結果	環境保全目標値 (降雨時のSS濃度の 現地調査結果)
		SS濃度	
木見川	農繁期	41.8	43
	農閑期	156.5	230
川池	農繁期 ^{注1)}	現況のSS濃度 以下となる ^{注2)}	48

注1) 農閑期は池干しが実施されており、農閑期の現況調査を実施していないことから、農繁期を予測及び評価の対象としました。

注2) 工事排水は、仮設沈砂池等により濁りを沈砂させた後、放流することから、川池よりも濁りが少ない状態で流入するため、川池の濁りが薄まると考えられます。

地形・地質（土地の改変）

工事の実施にあたっては、関連法令等に基づき適切に対応するとともに、事前に地形及び地質等の詳細な調査を実施し特性を把握した上で、土地の安定性が確保される工事計画を策定します。

また、法面や斜面においては、必要に応じて地すべり対策工等を採用し、法面や斜面の崩壊を予防し安全に工事を実施します。これらのことから、工事の実施に伴う土地の安定性は確保されると予測しました。

植物・動物・生態系

現地調査の結果、重要な種（レッドデータブック記載種など）として、下表に示す種が確認されました。

重要な種のうち、アマナやエビネ等の6種の植物や、セトウチサンショウウオやモリアオガエル等の4種の両生類は、「生育地・繁殖環境の消失の影響が生じる」、生育地が改変区域に近接するハコネシダ（植物）等の2種の植物は「質的变化の可能性はある」、周辺に生息環境が広く分布するアカネズミやルリビタキ等の59種の動物は「生息環境が一部改変される」と予測しました。それ以外の種は生育地・生息環境に「影響は生じない」と予測しました。

【現地調査で確認された重要な種】

分類群	代表的な種
植物	ハコネシダ、アマナ、エビネ等 計25種
哺乳類	モグラ科、アカネズミ、アナグマ等 計11種
鳥類	オシドリ、ミサゴ、ルリビタキ等 計26種
爬虫類	タカチホヘビ、シロマダラ、ヒバカリ等 計6種
両生類	セトウチサンショウウオ、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル等 計7種
魚類	ギンブナ、ドジョウ、シマヒレヨシノボリ 計3種
昆虫類	キイロサナエ、オオミズムシ、ヘイケボタル等 計15種
底生動物(昆虫類を除く)	オオタニシ 計1種



ハコネシダ



アカネズミ



ルリビタキ



セトウチサンショウウオ

人と自然との触れ合い活動の場

人と自然との触れ合い活動の場は、事業実施区域から約100m～約300m離れており、工事の実施により改変されず、利用状況の変化も極めて小さいと予測しました。

景観

進出事業者施設の一部が視認され、眺望景観を変化させると予測しました。なお、事業による影響は、緑化等の環境保全措置を実施することで、回避・低減に努めます。

【「太陽と緑の道」コース27 太山寺～木津（木見東交差点下）からの眺望景観】



【神戸三木線(旧道) (川池前) からの眺望景観】 事業実施区域



注) 進出事業者施設の位置、高さ、形式、デザイン及び色彩は計画段階のイメージであり、事業実施段階において変わる可能性があります。

文化環境

仏谷洞窟は、事業実施区域から約40m離れており、工事の実施により改変されず、また、周辺の樹林地も大部分が残されることから、影響は生じないと予測しました。

廃棄物等

工事の実施に伴い、伐採木、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、金属くず、混合廃棄物及び残土が発生すると予測します。なお、発生した廃棄物等は分別を徹底する等、可能な限り再資源化及び再利用を図り、再資源化等が困難な廃棄物等は法令に基づき適正な処理を実施します。

地球温暖化

工事の実施に伴う樹木の伐採により、伐採木から二酸化炭素が約1万t-CO₂発生し、樹木による二酸化炭素の吸収量が約800t-CO₂減少（当年）すると予測しました。また、建設機械の稼働により、二酸化炭素が約4万t-CO₂発生すると予測しました。

施設の稼働に伴う進出事業者の電力使用及び燃料使用により、それぞれ二酸化炭素が約2万t-CO₂/年及び約3万t-CO₂/年発生すると予測しました。

なお、事業による影響は、緑化の推進等の環境保全措置を実施することで、回避・低減に努めます。

●工事関係車両・施設関係車両の走行

交差点需要率^{注1)}が最も高い交差点は、神戸西IC北交差点となり、限界需要率^{注2)}を下回ると予測しました。

交通容量比^{注3)}が最も高い交差点は、神戸西IC南交差点となり、交通容量比1.0を下回ると予測しました。

なお、限界需要率を下回ることや交通容量比が1.0を下回る場合、理論上、円滑な交通処理ができると判断されます。

【交差点需要率】

予測地点	工事関係車両の走行		施設関係車両の走行	
	交差点需要率	限界需要率	交差点需要率	限界需要率
神戸西IC北交差点	0.692	0.920	0.781	0.920

【交通容量比】

予測地点	工事関係車両の走行	施設関係車両の走行
	交通容量比	交通容量比
神戸西IC南交差点	0.977	0.977

●歩行者等の安全への影響

神戸三木線（バイパス）及び小部明石線の沿道は、マウントアップ^{注4)}等により歩車道が分離されていることから、歩行者等の安全は確保されると予測しました。

注1) 交差点需要率とは、単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対する流入交通量の比率を指します。

注2) 限界需要率とは、交差点の処理能力の上限を指します。

注3) 交通容量比とは、走行可能な交通容量に対する流入交通量の比を指します。

注4) マウントアップとは、歩道面が車道面より高く、縁石の天端高さと同じである歩道構造を指します。

6. 環境保全措置

事業による影響を回避または低減するため、下表に示す環境保全措置を実施します。

【環境保全措置の検討結果】

環境要素	区分	主な環境保全措置の内容	
大気質 騒音 振動	工事中	建設機械の稼働	排出ガス対策型、低騒音型、低振動型建設機械の採用・整備・点検・取り扱いの教育・指導、散水の実施、造成箇所の早期転圧
		工事関係車両の走行	工事関係車両の集中回避・整備・点検・運転の教育・指導
	供用後	施設の稼働	進出事業者に以下の要請 法令等遵守・低公害施設及び高効率施設の設置・低騒音型設備機器や防音施設の設置・低振動型設備機器や防振施設
		施設関連車両の走行	進出事業者に以下の要請 運行管理・通勤車両低減・整備・点検・運転手の教育・指導
水質	工事中	仮設沈砂池等の設置、造成箇所の早期転圧	
地形・地質	工事中	地形及び地質の詳細調査に基づく工事計画の策定、地すべり対策工等の採用、適切な盛土の施工計画	
動物・植物 ・生態系	工事中・供用後	生育地・生息地の改変の回避、施工時の配慮、緑化、改変面積の縮小、濁水の流出防止、移植、生息・繁殖環境の整備	
人と自然との 触れ合い活動の場	工事中・供用後	施工時の配慮、緑化、進出事業者への施設配置・デザイン等の要請	
景観	供用後	緑化、進出事業者への施設配置・デザイン等の要請	
文化環境	工事中	施工時の配慮	
廃棄物等	工事中・供用後	伐採樹木の再資源化の促進、廃棄物の適正処理、残土の再利用、廃棄物の分別による再資源化等の促進	
地球温暖化	工事中	緑化の推進、低燃費型建設機械等の採用・取り扱いの教育・指導・整備・点検	
	供用後	エネルギー消費量の低減、特定物質（温室効果ガス）排出抑制計画書及び措置結果報告書の提出、緑化の推進	
地域交通	工事中	工事関係車両の集中回避・走行時間帯の管理・一部走行ルートへの限定・走行ルート及び走行時間の厳守・運転の教育・指導・交通誘導員による誘導、通勤車両の抑制、工事計画の周知徹底	
	供用後	進出事業者に以下の要請 運行管理・通勤車両低減・一般道での待機、路上駐車防止・一部走行ルートの限定・運転手の教育・指導・走行ルートの厳守	

7. 環境影響の総合評価

本事業の実施による環境影響を総合的に評価すると、予測結果を踏まえて適切な環境保全措置を実施することにより、事業の実施に伴う環境影響は、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避・低減又は代償されていると評価しました。また、国、県又は市が実施する環境保全に関する施策・基準等との整合も図り、環境保全への配慮を適性に行ったものと評価しました。

8. 事後調査の計画案

工事中及び供用後の事後調査の計画案は下表に示すとおりです。なお、工事中及び供用後の環境保全措置の実施状況についても確認する計画です。

【工事中の事後調査計画案】

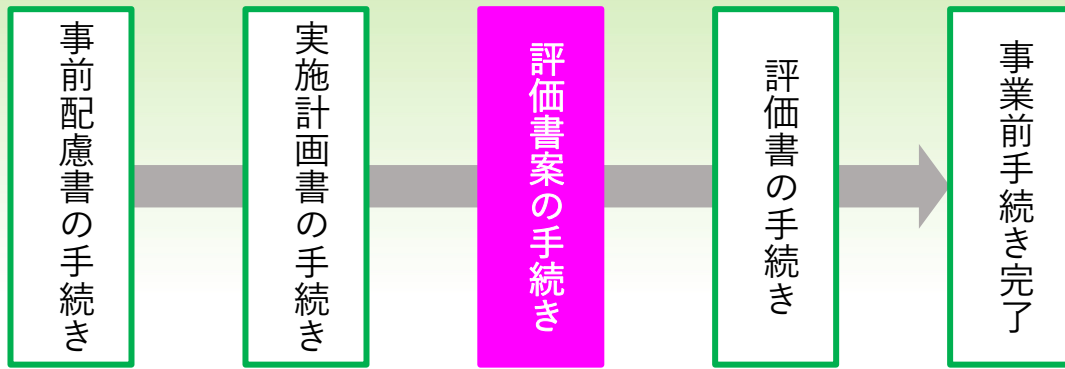
環境要素	環境調査	調査地点	調査時期
大気質	建設機械の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質	現地調査地点（1地点）	工事最盛期に1回
	建設機械の稼働に伴う粉じん（降下ばいじん）	予測地点（1地点）	工事最盛期に1回
騒音	建設機械の稼働に伴う騒音	予測地点（1地点）	工事最盛期に1回
	工事関係車両の走行に伴う騒音	予測地点（3地点）	工事関係車両台数が最大となる時期に1回
振動	建設機械の稼働に伴う振動	予測地点（1地点）	工事最盛期に1回
水質	土工事・建設工事等に伴う濁水（浮遊物質（SS））	予測地点（河川及びため池各1地点）	土工事の最盛期に1回
植物	移植対象種の生育状況	事業実施区域及びその周辺の移植箇所	各種の調査適期に1回
動物	事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況	事業実施区域周辺で確認された古巣	工事前及び工事中の繁殖期
	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況	生息・繁殖環境を整備した箇所	各種の調査適期に1回
生態系	事業実施区域周辺で繁殖の可能性がある猛禽類の繁殖状況	事業実施区域周辺で確認された古巣	工事前及び工事中の繁殖期
廃棄物	－	－	－
地球温暖化	－	－	－
地域交通	工事関係車両の走行に伴う地域交通	予測地点（8地点）	工事関係車両台数が最大となる時期に1回
	工事関係車両の走行に伴う歩行者の安全等	予測地点（主要な走行ルート沿道）	工事関係車両台数が最大となる時期に1回

【供用時の事後調査計画案】

環境要素	環境調査	調査地点	調査時期
大気質	施設の稼働に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質	現地調査地点（1地点）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回
騒音	施設の稼働に伴う騒音	予測地点（1地点）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回
	施設関係車両の走行に伴う騒音	予測地点（3地点）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回
振動	施設の稼働に伴う振動	予測地点（1地点）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回
植物	移植対象種の生育状況	事業実施区域及びその周辺の移植箇所	各種の調査適期に1回
動物	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況	生息・繁殖環境を整備した箇所	各種の調査適期に1回
生態系	生息・繁殖環境を整備した両生類の生息状況	生息・繁殖環境を整備した箇所	各種の調査適期に1回
景観	主要な眺望点からの眺望景観	予測地点（4地点）	施設稼働が定常状態に達した時期における各眺望地点の予測対象季節に1回
地球温暖化	－	－	－
地域交通	施設関係車両の走行に伴う地域交通	予測地点（8地点）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回
	施設関係車両の走行に伴う歩行者の安全等	予測地点（主要な走行ルート沿道）	施設稼働が定常状態に達した時期に1回

注) 調査地点に記載している現地調査地点や予測地点は、p4の図に示した調査地点、予測地点を指しています。

●環境影響評価の手続き



- 環境影響評価**：開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査・予測・評価を行い、その結果を公表して一般の方々などから意見を聴き、それらを踏まえて環境保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていこうという制度。
- 事前配慮書**：事業への早期段階における環境配慮を可能にするため、事業を実施しようとする者が、事業の位置・規模等の検討段階において、環境保全のために適正な配慮をしなければならない事項について検討を行い、その結果をまとめたもの。
- 実施計画書**：環境影響評価において、どのような項目について、どのような方法で調査・予測・評価をしていくかという計画を示したもの。
- 評価書案**：調査・予測・評価・環境保全対策の検討の結果を示し、環境保全に関する事業者自らの考え方を取りまとめたもの。（今回）
- 評価書**：評価書案で示した環境影響評価の結果に対する意見を勘案し、必要に応じて評価書案の内容を修正したもの。

●評価書案の縦覧・意見書の提出について

縦覧場所・期間

【縦覧場所】

- 神戸市 環境局 環境保全課 ●西区役所 まちづくり課 ●西区役所 押部谷出張所
- 西区役所 榎谷出張所 ●北区役所 まちづくり課

🔍 神戸市の環境アセスメント制度 検索

※神戸市のホームページでもご覧になることができます。

<https://www.city.kobe.lg.jp/a66958/kurashi/recycle/kankyohozen/assessment/nishikobegoruhujoutennkatuyou.html>

【縦覧期間】

- 令和5年3月10日(金)～令和5年4月24日(月) 各縦覧場所の執務時間内

意見書の提出方法・期間

1. 評価書案について環境保全の見地から意見のある方は意見書を提出することができます。
2. 所定の様式に環境保全の見地からの意見を記載してください。
3. 意見書の提出方法
 - ・ 郵送または持参（神戸市環境局 環境保全課(〒651-0086 神戸市中央区磯上通7-1-5 三宮プラザ EAST2階) まで）
 - ・ 電子メール（assessment@office.city.kobe.lg.jp）
 ※必要事項（氏名及び住所、環境保全の見地からの意見）をご記載ください。
4. 意見書の受付期間：令和5年4月24日(月)必着

お問い合わせ先

神戸市 都市局 内陸・臨海計画課
 〒651-0083 神戸市中央区浜辺通2-1-30 三宮国際ビル9階
 TEL 078-595-6785 FAX 078-595-6812

本資料に掲載した地図は、国土地理院発行の電子地形図に情報を追記したものである。